

乳酸菌生成エキスによる大腸ポリープの改善報告

近年、食生活の欧米化にともない、大腸癌・大腸ポリープなどの大腸疾患の発生頻度が増加しています。とくに大腸癌による死亡率は胃癌に次ぐ高さとなり、その早期発見と早期治療の必要性が叫ばれています。

以前から、乳酸菌生成エキスは、大腸ポリープ・大腸がんの予防および補完治療の一環として取り入れられております。医学的メカニズムはまだまだ研究段階ですが、腸管免疫の向上、異常細胞のアポトーシス誘導、がん因子物質の吸着作用などによる抗腫瘍効果が示唆されております。

本記事では、乳酸菌生成エキス(アルベックス)の飲用によって、大腸ポリープの改善が見られたという大阪・難波で開業の鶴見孝文先生のご報告を紹介いたします。

医療法人太讃会 つるみクリニック

院長 鶴見孝文 先生

内科, 胃腸科, 消化器科, 麻酔科

大阪府大阪市中央区難波 4-2-4 ヤシマ御堂筋ビル 6F

電話: 06-4396-3900 FAX: 06-4396-3909

私は開業 5 年間になる消化器内科クリニックで診察をしています。私自身、10 年前より開業 2 年目まで、大腸ポリープが発症し毎年切除していました。最初のタイプは山田 III 型(注 1)でグループ 3(注 2)でしたが、あとは山田 II 型の大腸腺腫が続いていました。

乳酸菌生成エキス(アルベックス)を 1 日 1 本飲み始めて 1 年で過形成性ポリープ(注 3)となりました。翌年からはポリープが認められなくなり、検査も 2 年に 1 回となり、それ以来ずっとポリープを認めない状態が続いています。

自分で効果があったのと、会社の方がこられて乳酸菌生成エキス(アルベックス)内服による腸内状態の改善をグラフで説明していただいて納得したので、患者さんにも乳酸菌生成エキス(アルベックス)をすすめるようになりました。

当院は外来で年間 400 名の大腸カメラを施行していますが、うちポリープが多発してい

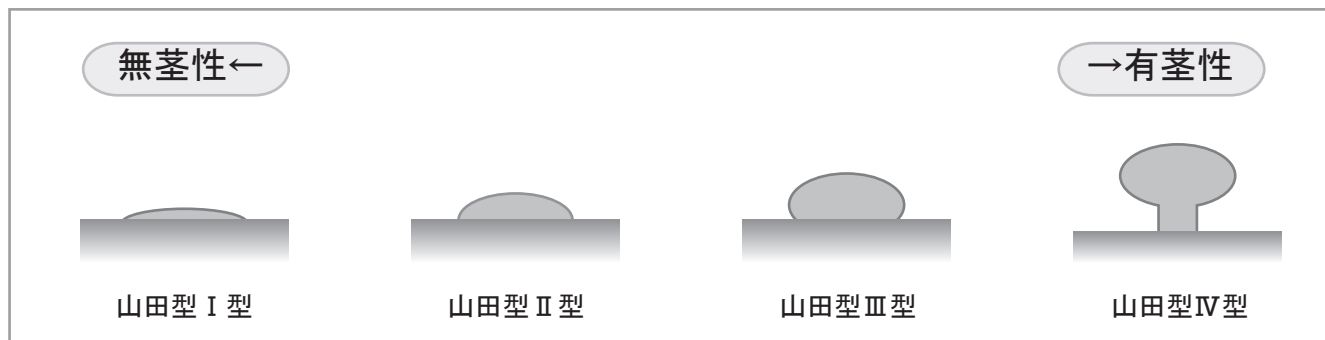
乳酸菌生成エキス(アルベックス)を 6 か月~1 年、1 日 1 本内服していただきました。

12 人は半年~1 年後の CF(大腸カメラ検査)結果、ポリープは消失してしまいましたが、2 名にポリープが認められました。ともに前回グループ 3 の方でした。再度切除後 1 名には 1 日乳酸菌生成エキス(アルベックス)を 2 本に増量していただき半年後にポリープは消失しました。もう一人は、一日 1 本の乳酸菌生成エキス(アルベックス)の服用で、半年後に消失しました。

他にもポリープの数が再検時に激減した方も数多く経験しております。1 度消失した方も身体の調子が良いと続行されている方が多く、私自身も効果を体感しています。

当院ではまず食養、続いてサプリメントにと加療を目指しています。乳酸菌生成エキス(アルベックス)は免疫機能の改善目的も含めて多くの患者様が愛飲しておられます。

注1) 大腸ポリープの肉眼的分類 (山田分類)



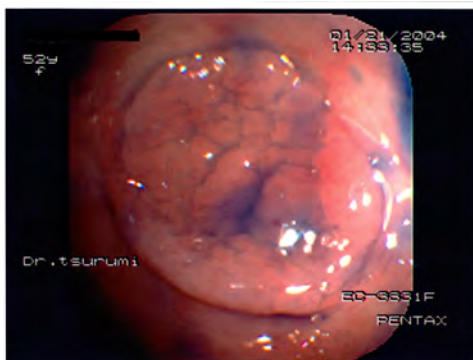
注2) 通常大腸がん検診で発見されるのは腺腫性ポリープです。良性ポリープで、がんではありませんが、1 cm以上のものは、ポリープの中にがんが潜んでいる可能性があったり、将来がん化する可能性があるため、切除が勧められています。

注3) 過形成性ポリープ・・・粘膜が盛り上がったもので、小さな良性のポリープです。一種の老化現象と説明されたりします。一般に治療の必要はありません。

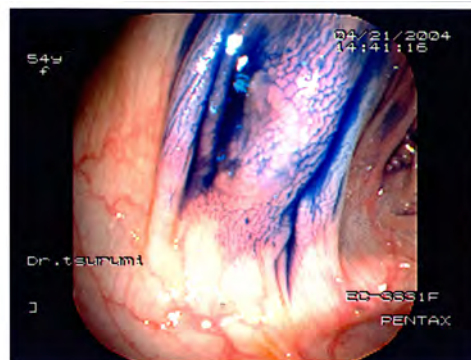
注4) グループ4・5は、細胞的には悪性と考えられています。
グループ3は、細胞的には中間で経過を観客する必要があります。

■ 大腸内視鏡による大腸ポリープの写真 (写真提供：つるみクリニック)

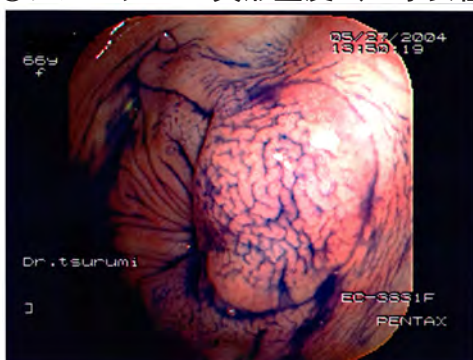
①グループ4・早期がん (52才女性)



②グループ3・異形上皮 (54才女性)



③グループ3・異形上皮 (66才女性)



④グループ3・異形上皮 (53才女性)

